

1 単元デザイン

単元の主張	児童の身の回りにおける具体物の中からものの色、大きさ、位置や材質などを捨象して、形を認め、形の特徴について捉えることが重要である。その際、形状の特徴を捉えるとともに「転がる」「積み上げる」などの機能的な性質についての理解も深め、形の特徴について言葉を使って表せるようにする。形について学ぶことの楽しさを感じる経験を通して、図形に対する関心を喚起し、感覚を豊かなものとしていく。
-------	--

①	② ③	④	⑤
・身の回りにおけるいろいろな形を使った遊びを通した機能面への関心	・ものの形を機能に着目し特徴をつかむこと	・ものの形を形状に着目し特徴をつかむこと	・立体の構成要素の素地を培うこと
・身の回りにおけるものや箱を使って形遊びをする。 ・できあがった形について説明する。 ・ものの形を認めること。 箱・筒・ボールの形などの身の回りの立体。構成する面の形「まる・さんかく・しかく」	本時 ・かたち遊びで出合った「積む」「平ら」などの操作で発見した身の回りにおけるものの形の特徴を、機能に着目して見つめ直す。	・かたち遊びで出合った「転がる」操作で発見した身の回りにおけるものの形の特徴を、機能に着目して見つめ直す。	・身の回りにおけるものの形を観察し、立体の機能面と、立体を構成する形状の特徴をまとめ、説明する。

2 単元で育成する資質・能力

<p>① 生きて働く「知識・技能」 (ア) ものの形を認め、形の特徴を知ること。 (イ) 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 (ウ) 前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すこと。</p>	<p>② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」 (ア) ものの形に着目し、身の回りにおけるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。</p>	<p>③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」 ・数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。</p>
<p>児童の身の回りにおける具体物の中から、色や大きさ、位置や材質などを捨象し、ものの形のみに着目してものを捉えられるようにする。また、立体を構成している面の形に着目して、「しかく」、「まる」などの形を見付けることができるようにする。さらに、形状の特徴を捉えるとともに「転がる」「積み上げる」などの機能的な性質についての理解も深めたい。</p>		
<p>ものの形や立体が身の回りでのどのようなところに見られるか、それらの用いられ方にどのような特徴があるかということに気付けるようにする。また、具体的な操作を通して形の構成について考えるなど、形を作ったり分解したりすることを通して、形状の特徴と機能的な性質を互に行き来させながら形の構成の仕方について考えられるようにする。</p>		
<p>就学前の段階から、積み木や折り紙などを通して図形に親しんできている。これまで無意識に行ってきた積み木を積むなどの経験とつなげながら、それらの操作が機能や形状に基づくものだと気付かせていくようにする。また、身の回りの形から形の特徴を見つけ、活用したり、説明したりしようとする態度を養う。</p>		

3 単元に関わる内容と見方・考え方の系統

B「図形」領域 (立体を中心に整理)						
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
内容	・具体物を用いて形を作ったり分解したりすること	・箱の形 ・三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形	・二等辺三角形、正三角形、角、円、球	・直方体、立方体 ・対角線 ・直線や平面の平行や垂直の関係 ・平行四辺形、ひし形、台形	・角柱や円柱 ・底面・側面 ・体積の単位 ・立方体や直方体の求積	・角柱や円柱の求積 ・縮図や拡大図 ・対称な図形
図形を捉える見方	・ものの形 (形を全体的に捉える)	・構成要素 辺、面、頂点、直角 ・直線、直角	・構成要素 円の中心、半径、直径 辺の長さ、角の大きさの相等	・構成要素 辺、面、頂点 ・平行や垂直の関係	・構成要素 底面、側面、高さ ・体積の単位	・構成要素 底面、側面、高さ ・図形間の関係 (拡大・縮小)
考え方	・ものの特徴を捉える ・形の構成について考える	・構成の仕方を考える ・三角形や四角形の特徴を捉える	・構成の仕方を考える ・図形の性質を見いだす ・身の回りのものの形を図形と捉える	・構成の仕方を探る ・図形の性質を見いだす ・日常の事象を図形の性質から捉え直す	・図形の性質を見いだす ・既習の図形を捉え直す ・既習の単位間の関係と体積の単位の間を考察する	・既習の体積の求め方を基に考察する ・図形の面積の学習と関連付けて考察する

4. 本時について

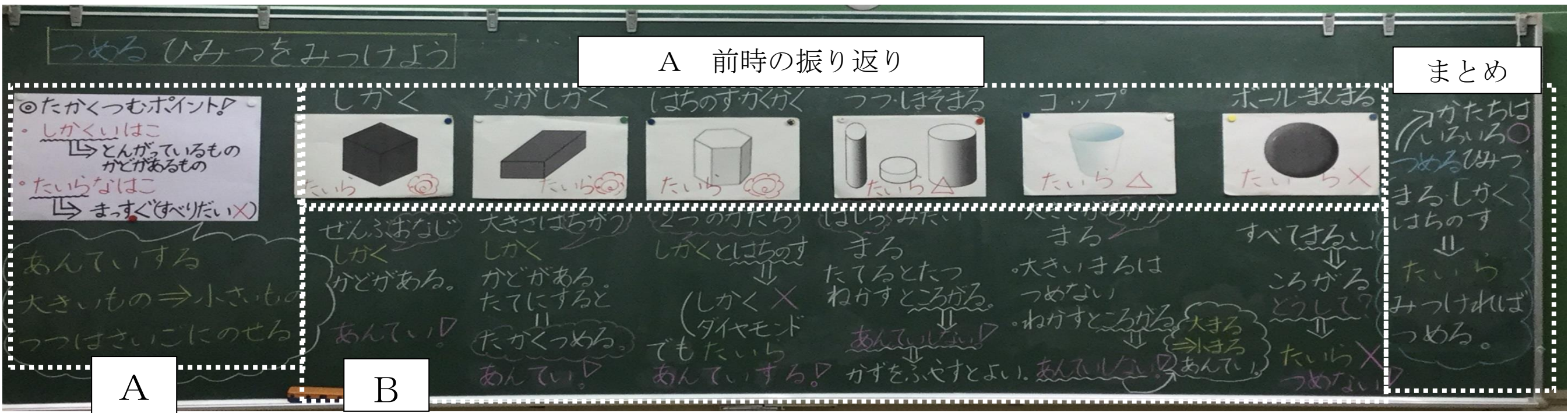
本時目標 ものの形に着目し、「まる」「しかく」「たいら」などの形状や「転がる」「積み上げる」などの機能を言葉や具体物を用いて表現することができる。

<p>○本時の主旨 ものの形に着目し、「まる」「しかく」「たいら」などの形状や「転がる」「積み上げる」などの機能を捉える。形を作ったり分解したりする具体的な操作を通して、形状の特徴と機能的な性質を互いに行き来させながら形の構成の仕方について考えられるようにする。</p>	<p>1 問題場面の把握と解決の見通し ○高くつむための形の特徴を確認する。 ・しかくいはこはつめる。 ・かどがとがっているものがよかった。 ・つつの形はうまくいかなかった。 ・平らなものがよかったな。 ・平らでも大きいものから使えばよさそうだね。 「まるやはちのす(六角柱)は積めないのだろうか。」</p>	<p>2 積めるものの形の特徴を捉える ○いろいろな積み方をして積めるひみつを探る。 ・しかくいはこは安定する。 ・大きい平たいものから積むと高く積める。 ・同じ形も向きを変えても積めるよ。 ・筒は寝かすと転がってしまう。 ・立たせると積みそう。安定しないよ。 ・平らなまるは立つけれど上に積みにくいな。 ・坂があるとうまく積めないから転がるね。</p>	<p>3 ものの形に着目し、積めるものの弁別の仕方を考える ○積める、積めないものの弁別をする。 ・全部四角い箱は積める。 →平らだからどこでも積める。 ・なが四角も同じだよ。 ・ダイヤモンドみたいなのも積みそう。 →全部平らだから2つと一緒だよ。 ・平らな丸い箱は積めたよ。でも安定しなかった。 ・長い筒も寝かすと転がってしまう。 ・コップも同じだったよ。 ・ボールは転がってうまくいかなかった。</p>	<p>4 形状や機能について言葉や具体物を用いて表現することでものの形の特徴をつかむ。 ○積めるひみつは何かを共有する。 ・平らなものは積める。 ・四角は安定して積めるよ。 ・ダイヤモンドみたいな箱も平らだから積めるね。 ・丸い筒も積める時と転がる時がある。 ・コップは積めるけど筒と一緒に安定感がない。 ・ボールは平らがないから積めないよ。 →しかく、さんかく、まる、ダイヤモンドなどどんな形でも平らであれば積むことができる。</p>
---	--	---	---	--

本時における 知識・技能 : 形を作ったり、分解したりする操作を通して、形状の特徴と機能的な性質を互いに行き来させて分類することができる。
 思考・判断・表現 : 形遊びで出合った「積む」「平ら」などのものの形の特徴を、機能に着目し、積めるものの弁別の仕方を考える。
 学びに向かう力 : 積むなど機能や形状に気付かせ、形の特徴を見つけて活用したり、説明したりしようとする態度を養う。

見方：着眼点 平らな形に着目

考え方：思考・認知、表現方法 具体的な操作を通して形状や機能を言葉や具体物を用いて表現し弁別する力





見方・考え方の成長
ものの形に着目し、「まる」「しかく」「たいら」などの形状や「転がる」「積み上げる」などの機能を言葉や具体物を用いて表現する。平面や立体の学習の素地を養う。

つめるひみつをみつけよう。

机間指導
 T11 すごい。すべりだいができている。
 T12 どうして立てたのかな。

活動中
 C29 トイレットペーパーの芯と少し高い箱をうまく使ったらできたよ。
 C30 寝かすと転がってしまうんだよ。

B 形を機能に着目し、特徴を掴みだす。


T12 あっ！この班は何か困っているね。
 T13 どうしてつめないのかな。(動画2)

 T14 あれ。ここもほそまるに苦戦しているのかな。
 T15 どうしたら立つの。(動画3)

 T16 チーズの箱、違う積みかたしているね。
 T17 角もないし、とんがってもない。平らなのかなあ。
 T18 あっ。すごい。よいことに気付いたね。
 T19 おっ。いいね。絶好調。

C31 ほそまるがうまくつめないの。
 C32 転がってしまうんだ。
 C33 先生、ぼくは橋みたいにしたらうまくいったよ。
 C34 あー。なるほど。箱を横に動かしてみようよ。
 C35 でも、高さが違うとうまくいかないね。
 C36 同じ高さにしてみようよ。
 C37 あっ！うまくいったね。
 C38 いや。大丈夫。わかったから。
 C39 もう1本あったらもっと大きいのができる。
 C40 えっと、同じ長さで同じ大きさのものを使うといいけど。
 C41 こうして近くにやるとうまくいかないけれど離すと立つよ。2本より3本の方がもっとよい。
 C42 うん。船を運転するところを作りたかったから立てたかったの。
 C43 そっと置いたらのったんだよ。ほら、まっすぐ見るとべちゃんこに見えるでしょ。平らがあるでしょ。
 C44 チップスター(つつ)も望遠鏡にしたかったから寝かしたよ。これもチーズの箱と一緒にだよ。

T20 はい。時間になったので集合しよう。

C45 え、まだ終わってない。
 C46 かんぺきかんぺき。

5. 授業記録

教師の発問	児童の反応
<p>T1 昨日、はこをつかっていろいろなものをつくりました。みんなで大騒ぎして楽しかったね。</p> <p>T2 どんなかたちのはこがあったかな。</p>  <p>T3 いろいろな形があったね。1班が作った南スカイツリー、とても高かったね。どのくらいだったかな。</p> <p>T4 なんでぐらぐらしたの。</p>	<p>C1 ジャガビーの箱でましかく C2 ながしかく C3 ほそまる・つつ C4 ボール C5 コップ C6 はちのす</p> <p>C7 もう少しで、天井に届きそうだったね。 C8 先生の背より高かったよ。 C9 ぐらぐらするからどきどきしたよ。</p> <p>C10 だんだんまっすぐ立たなくなってしまって大変だったの。</p>
<p>T5 どんな箱をつかうとうまくつめたかな。</p> <p>T4 なるほど。安定しにくいつてことかな。確かにみんなしかくばかり使っているね。</p> <p>T5 ほかにはあるかな。</p> <p>T7 どんな形が高くつめる形なのかな。</p> <p>T8 コップ、はちのす、ボール、つつはでてこないけれどつめないのかな。</p>	<p>C11 <u>しかくい箱</u>はつめたし、安定したよ。 C12 <u>かどがあつて、とんがっているもの</u>がよかった。 C13 <u>ほそまるはうまくいかなかったな。</u></p> <p>C14 うん。すぐに倒れてしまうんだよ。</p> <p>C15 <u>平らなもの</u>がよかったよ。 C16 平らでも<u>下の方に大きいものをおく</u>とよかった。 C17 同じです。</p> <p>C18 しかくいのはこ。一番左。 C19 とんがっているもの。 C20 かどがあるはこ。 C21 そうそう。 C22 たいらなはこ。左から2番目もいける C23 <u>まっすぐでもかどがまるくてすべりだいになつてしまうのはだめ。</u> C24 <u>つつはつめるよ。</u> C25 いや、<u>すぐに落ちちゃうよ。</u> C26 前は、使っていないから<u>やってみないとわからないよ。</u></p>
<p>T9 そうだね。では、今日は積めるひみつを考えていこうか。でもルールが一つあるよ。黒板に貼った形をすべて使うことは忘れないようにしてね。</p>	<p>C27 やった。また作って遊んでいいの。 C28 えっ！ぜんぶ使うのは大変だなあ。</p>

- T21 みんな積めるひみつわかった？
- T22 では、しかくとながしかくから整理してみようか。
- T23 どうしてか教えて。
- T24 うん？しかくの大きさも関係あるの？
- T25 安定するにはそんなコツがあるんだね。みんな大発見。すばらしい。
- T26 ここからが問題だね。はちのすは？
- T27 2つが全く違うのか・・・。
- T28 じゃあ、転がってしまったの？
- T29 もしかしたら転がってしまうかもしれないのかなあ。
- T30 えっ？そうなの？
- T31 ラップの芯？
- T32 じゃあ、積みにくい？
- T33 Kくん教えてもらえる？さっき言ったこと。
- T34 その微妙なバランスに成功したんだね。

- C47 わかった。
- C48 ちょっと自信ないけれどだいたいは。
- C49 しかくはぜんぶ同じしかくでたいたらだよ。
- C50 かどもあるし、とんがっている。
- C51 どこに積んでも安定したよ。
- C52 ながしかくも安定したよ。
- C53 大きさは違うけれど、しかくだったから。
- C54 とんがっていたし、かどもあるよ。立てると長いから得する。
- C55 いや、しかくが小さいから倒れやすくなっちゃうよ。
- C56 うん。大きいから床につくのが広がるから安定するよ。だから大きいものから小さいものを積んでいくと高く積めたでしょ。
- C57 わたしたちもそうしたよ。

B①形に着目。

- C58 しかくとはちのす。はちのすはしかくではないけれど、ダイヤモンドみたい？ なんかかわからないけど、たいたらだよ。
- C59 たいたらだから、どこも積めたよ。でも、しかくの方で積むと、転がりそうだった。
- C60 いや、たくさん積まなければ安定したよ。
- C49 それはあるかも。
- C61 あっ。それつてもほそまるも一緒じゃん。
- C62 どれもはしらみたいだよ。でもチーズの箱は平らが大きいから安定したよ。
- C63 いや。立てるの大変だったよ。(C36) まるいたいらなところはいいのだけれどまわりはよくみると平らだけど・・・。 安定感がないよ。だから、ちょっと触ったら転がってしまったの。
- C64 ほそまるもそうだった。

- C65 そう。だから同じ大きさの箱を動かして止まる場所を探したよ。
- C66 ぼくは立てて高さを出したかったけど、なかなか立たなくて上に積みなかった。でもKくんが考えてやったらうまくいったの。
- C67 同じ長さで同じ大きさの物を使うといいけど。並べておくとバランスがとりにくかったから、離して置いていったの。で、数が多いほど安定した。でも多すぎるとくっついちゃうから意味ないんだけど。まあ、よく考えてやればいいかな。

- T35 コップは？
- T36 なるほど。コップも安定しないのかな？
- T37 最後、ボールだね。
- T38 どうしてかな？少しまわりと相談してみて。
- T39 まるいとだめなの？ほそまるやチーズもまるだよ。
- T40 どういうこと？
- T41 転がるのはなぜかな？
- T42 もう一步。
- (まとめ)
- T43 なんか、いろいろ考えていくうちに積めるひみつがみつきりそうだね。気付いたことはない？



- T44 かくかく？って。
- T45 なるほどね。ほかにはある？

- C68 大きさが違うまるだった。
- C69 大きい方は穴があいてるから積みなかったよ。
- C70 寝かすとやっぱりだめだった。
- C71 そんなことないよ。穴があいている大きいまるを下にすればしっかり立つよ。
- C72 でも、小さいまるの上には大きい安定した箱をのせないとだめだったよ。
- C73 積みなかった。
- C74 同じです。
- C75 へこんでいるところにのせるのはできたけどね・・・。
- C76 すべてまるいから。
- C77 先生、まんまるいのとまるはちがうよ。
- C78 ボールはつるつるでころころ転がる。
- C79 わかった。角がない。
- C80 しかくくないから。
- C81 あー。はいはいはい。
- C82 平らがないんだよ
- C83 あー。なるほど。
- C84 同じです。

B②角に着目。

- C85 やっぱりしかくい箱は積めるよ
- C86 ぼくもおなじでしかくいのはこは長くても積める。
- C87 はちのすは積めないと思ってたけれど、積めたね。たぶん、かくかくしていたからかな。
- C88 えっと、角があって、まるいんじゃないくて、とんがっているもの。
- C89 平らだったら積める。
- C90 あー。うんうん。

B③面に着目。

T46 ということは平らならなんでもよいの？
もう一度、にらめっこしてみて。

C91 あっ！ボールはだめだった。
C92 そうだった。
C93 ボールは平らじゃないってさっき言ったじゃん。
C94 わかった。平らだったら何でも積めるんだよ。
C95 そっか、形はまるでもしかくでもはちのすでも。
C96 だから……。平らを見つければ絶対に積める。
C97 (うなずき多数)

T47 おっ！いいね。すばらしい。
では、まとめるね。積める形は？

C98 まる
C99 しかく
C100 どんな形でもよい。
C101 だから、はちのすでも。

T48 もう一つ大事なことは？

C102 平らを見つける。
C103 同じです。

6. 児童の振り返り

T49 今日の学習でわかったことを発表して。

C104 いろいろな積み方をしていったら、大きいものから小さいものを積むと安定して積めることに気付いた。
C105 最初、つつとかほそまるが大変だったけれど平らを見つけられたらうまくいくことに気付いた。
C106 しかくは積むのにはスーパー安定。
C107 平らを探せば積めることがわかった。
C108 平らをうまく積み上げていくと南スカイツリーのギネス更新ができそうだったと思った。

T50 次回は、今日、「転がる」という言葉がたくさんでてきたので、転がるひみつを調べてみようと思います。

C109 遊べる？
C110 やったー。ボーリングしよう。
(号令)

7. 分析と考察

A. 前時の形遊び、タワー体験を振り返ることで問題場面の把握と解決の見通しをつけた。

就学前に積み木遊びなどを用いた活動の経験がたくさんしている子ども達。その経験の中で「積む」「転がる」「平ら」「ならべる」などの言葉を引き出し、図形を観察できるようにしていきたいと考えた。

前時に行った形遊びで、はじめにみんなでタワーづくりを行い、いろいろな形の箱と触れ合う時間にしていった。その中で「積む」＝安定した箱というイメージをもっていた子ども達。高く積み上がるにつれて不安定になるタワーを楽しみながら、子ども達はもっと高く積みたいという意欲をもって取り組んでいたようである。タワーづくりを通して、「安定する箱」「安定しない箱」を弁別しはじめ、使う形と使わない形が明確になっていった。

T5 どんな箱をつかうとうまくつめたかな？

- ➡ C11 しかくい箱はつめたし、安定したよ。
- C12 かどがあって、とんがっているものがよかった。
- C13 ほそまるはうまくいかなかったな。
- C14 うん。すぐに倒れてしまうんだよ。
- C15 平らなものがよかったよ。
- C16 平らでも下の方に大きいものをおくとよかった。



T7 どんな形が高くつめる形なの？

- C18 しかくいほこ。一番左。
- C19 とんがっているもの。
- C20 かどがあるほこ。
- C21 そうそう。
- C22 たいらなほこ。左から2番目もいける
- C23 まっすぐでもかどがまるくてすべりだいになってしまふのはだめ。
- C24 つつはつめるよ。
- C25 いや、すぐに落ちちゃうよ。
- C26 前は、使っていないからやってみないとわからないよ。

その後、タワーを崩しながら好きなものを作るようにしていった。その中で転がるものや積みやすいもの、積みにくいものなど機能的なことから性質に至るまで自然と図形に対する感覚を身に付けていたようである。作りたいものにあつた箱を使う。積み木遊びと同じような経験が子ども達の図形への興味や関心をさらに広げていく活動となり、とても大切な時間と感じた。しかし、タワーづくりや形遊びで自然と分類して活用していなかった「つつ」「ほそまる」「ボール」「はちのす」。今回、その箱をあえて使わせることで「しかく」＝積めるという考えに限定する子ども達にもう一度、「平ら」という形の特徴を機能に着目させることでさらなる特徴を引き出して深めていける活動を考えた。

B. 形状や機能について言葉や具体物を用いて表現することでものの形の特徴をつかむ。(練り上げ)



困り感＝かたち遊びをする中で、**つつ・ラップの芯・チーズ**の箱の扱いに困る児童が多くいた。

- C21 先生、ぼくは橋みたいにしたらうまくいったよ。
 - C22 あー。なるほど。箱を横に動かしてみようよ。
 - C23 でも、高さが違うとうまくいかないね。
 - C24 同じ高さにしてみようよ。
- というように互いの意見を出し合い、うまく「積める」方法を考えるようになり、そのやりとりの時間を大切にしていた。

C36 うん。船を運転するところを作りたかったから立てたかったの。

C37 そっと置いたらのったんだよ。ほら、まっすぐ見るとぺちゃんこに見えるでしょ。平らがあるでしょ。

C38 チップスター(つつ)も望遠鏡にしたかったから寝かしたよ。これもチーズの箱と一緒にだよ。

次第に、積むためには「平ら」を見つけようという考えを見出す子ども達が増え、面の形に着目するようになっていった。

➡そういったやりとりの中で、

子ども達は具体的な操作を通して形の構成についても考え、さらに「平ら」という形の特徴を捉え、「積める」「積めない」の弁別をするようになっていった。机間指導の中で、形状や機能について言葉や具体物を用いて表現することを繰り返したことで、友達にわかりやすく伝えようとする子ども達の姿も見られていった。どうしたら「積めるのか」、その疑問を活動を通して解決し、いろいろな形作りをしながら、算数的な気づきを生み出し、価値づけていくことができていたように思う。

前時の活動で出てきたキーワードとなる高く積めるポイントをうまく活用することで練り上げの視点を焦点化していった。①形 ②角(とんがっている・とんがっていない) ③面(平らか平らでない) ➡そして安定する・安定しない・転がるという表現を互いに活用することで違いが可視化できるように心掛けていった。子ども達は日頃から、考えをつなげる積み重ねを行っているので、自然と言葉が行きかう場面が多く見られたのでより深めていけたように感じた。

① 着目する視点＝形

- C58 しかくとはちのす。はちのすはしかくではないけれど、**ダイヤモンドみたい**? なんだかわからないけど、**たいらだよ**。
- C59 **たいらだから、どこも積めたよ**。でも、**しかくの方で積むと、転がりそうだった**。
- C60 いや、たくさん積まなければ**安定**したよ。
- C49 それはあるかも。
- C61 あっ。それつつも**ほそまるも一緒**じゃん。
- C62 どれも**はしらみたい**だよ。でもチーズの箱は平らが大きいから**安定**したよ。
- C63 いや、立てるの大変だったよ。(C36) **まるいたいらなところはいいのだけれどまわりはよくみると平らだけど**・・・。**安定感がないよ**。だから、ちょっと触ったら**転がってしまったの**。
- C64 **ほそまるもそうだった**。

② 着目する視点＝角

- C85 やっぱりしかくい箱は積めるよ
- C86 ぼくもおなじでしかくいはこは長くても積める。
- C87 はちのすは積めないと思ってたけれど、積めたね。たぶん、**かくかくしていた**からかな。
- C88 えっと、**角があって、まるいんじゃない**、**とんがっているもの**。
- C89 **平ら**だったら積める。
- C90 あー。うんうん。

③ 着目する視点＝面

- C91 あっ!**ボールはだめ**だった。
- C92 そうだった。
- C93 ボールは**平らじゃない**ってさっき言ってたじゃん。
- C94 わかった。**平ら**だったら何でも積めるんだよ。
- C95 そっか、**形はまるでもしかくでもはちのす**で
- C96 だから・・・。**平ら**をみつければ絶対に積める。

(最後に) 形を観察したり考察したりする活動の中で、構成できる理由や構成した様子などを言葉で表現させることで子どもたち自身が、箱の形の特徴をしっかり掴むよい活動になっていたと考える。はじめに行ったタワーづくりでは高さや安定感を見出すのは面が広い四角い箱(直方体)やましかく(立方体)だけが「積める」ものという考え方であった子ども達。➡さらに活動を続けることで、形状の違い＝「転がりやすいもの・転がりにくいもの」➡機能的な性質＝「重ねて積み上げることができるもの(縦長・横長)などの特徴はあるけれど、積める箱のひみつには共通点があることに活動を通して気付いていた。そして、「積める」「積めない」を判断するのに大事なことは、形はいろいろでも**平らがある**かで弁別できると考えを深めることができた。本単元は、算数的な気づきを生み出すために条件や仕掛けなどの工夫を加えることが見方や考え方の成長につながると感じた。最後に行った形遊びでは自然と作りたいものに対して、「展望台にはチーズの箱がよさそうだね。『やっぱり電車のタイヤは缶が一番合うね。』などと立体図形の機能に着目した発言が多く見られていた。単元を通して共有の仕方をしぼってきたことで友達と言った言葉を自分の言葉のようにして表現する姿から図形の弁別を通して、自分なりに捉えた様々な観点で形を見られるようになっていたように感じた。今後の立体図形の学習につなげるためにも、今回のような体験的な活動を大切に指導していきたいと感じた。

